

トピックス



大阪市北区天満橋1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

平成26年度「森林の調査隊！！フォトコンテスト」審査発表♪

【箕面森林ふれあい推進センター】平成26年11月3日（月・祝）に、箕面森林ふれあい推進センター主催の「森林の調査隊！！フォトコンテスト」最終審査会を行いました。京都市東山区の清水寺「経堂」において公開で開催し、「写真の表現力」「作品に込められた思い」などの審査の上、林野庁長官賞など10作品を決定しました。

このコンテストは、身近な森林・里山の動植物や森林と人との関わりをテーマとして募集を行い、学校・幼稚園・森林での活動団体・カブスカウト・個人などから60作品の応募があり、その作品の中から選ばれた29作品が最終審査に残りました。

最終審査会では、応募者が、作品に込めた森林や動植物への思いや森林での活動体験を発表し、審査員や会場参加者に直接訴えました。発表後の審査を待っている時間に、清水寺のご厚意により修復工事が行われている清水寺阿弥陀堂などを見学させていただきました。

審査員は、只木良也氏（京都府立林業大学校長）、青山佳世氏（フリーアナウンサー）、久山慶子氏（フィールドソサイエティー事務局長）、久留飛克明氏（大阪府立箕面昆虫館館長）、北田研索氏（写真家・宝塚大学特任教授）です。

林野庁長官賞

「森林と人の生活」 大河内 一宏



①

③



② 森林は、はるか昔から人の生活に関わってきました。森林には泉や小さな川もあります。人は森林の湧き水を飲み水として活用しています。この泉は昭和60年に全国名水百選に認定された「塩釜の冷泉」です。東西12m、南北5mのひょうたん型の小池から毎秒300Lの湧水が、水温11度で流れ出しています。この冷泉を伝説と結びつける話もあります。（写真①）

水の流れを活用して水車を使って、揚水・脱穀・製粉・製糸などに広く使用されていました。現在でも少数ながら見ることができます。写真の水車は水苔が生えており、趣のある水車になっています。（写真②）

また、最近では都会での生活が増えていますが、多くの人が森林でのキャンプに行くなど、森林との関わりを求めています。蒜山高原には、人による石の彫刻が多数展示されています。それぞれの展示物は人が森林との繋がりを模索して造られたものでしょう。森林との関わり方に、人が新たな試みとして取り組んでいる姿を見ることができました。（写真③）



林業女子会@山口で行ったツリークライミングの様子を撮影した写真です。国立山口徳地青少年自然の家にある大きなクヌギの木が舞台です。大人9人、子供5人の合計14名でツリークライミングを体験しました。

最初にクヌギの木の下でツリークライミングの歴史やルール、遊んでもらうクヌギの木の説明を講師から聞いて、いざ挑戦!!最初は恥ずかしいのか「やりたくない」といって他の遊びをしていた子供たちでしたが、大人が楽しんでいる様子を見て「僕もやりたい!」と積極的に参加するようになりました。お母さんや講師に手伝ってもらって少しずつ登っていましたが、いつの間にか自分の力で輪っかに足を通して高いところを目指そうとしていました。

不安定な体勢で一生懸命登ろうとする姿に思わずシャッターを押しました。子供が成長している瞬間を撮れたように思います。木の上から見るいつもと違った景色、木と一体になれたような感覚は大人の私も大変感動しました。森は大人に童心を思い出させてくれる場所であり、子供を成長させる場でもあると感じました。

審査員特別賞

裏山のカモシカ 大井 椋介

「裏山登山に行こう」とお父さんが言ったので、家から近い高尾山というところに行きました。

山を歩いていると、後ろから「ガサガサ」と音がしました。振り向くと、目の前に黒いものが僕たちの進む道の前に飛び出しました。「カモシカだ!」とお父さんは言いました。突然だったのでビックリしました。

カモシカを驚かさないように静かにしていました。そのときに、写真を撮りました。

しばらくじっとしていると、ゆっくりと動いて、道をあけてくれました。

「ありがとう。」と僕たちは声をかけて静かに通り過ぎました。



近畿中国森林管理局賞

「ぼくのすきなセマルハコガメ」

武田 草太



「森を見つめる小さな瞳」

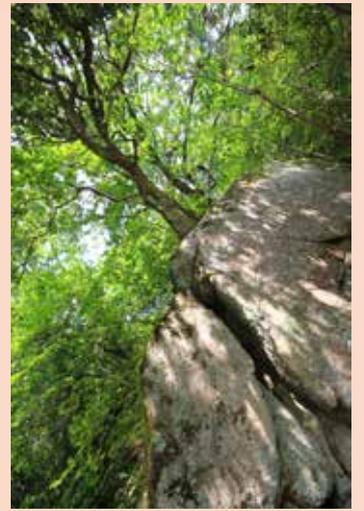
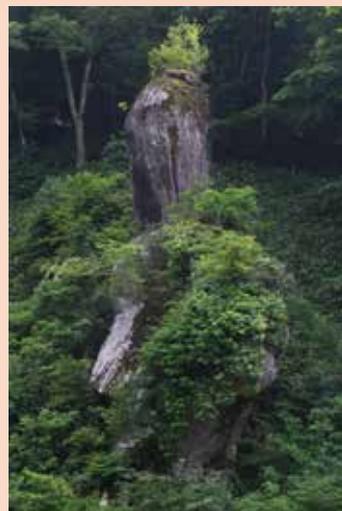
小倉 玲



「健気に生きる」 川口 智史



「岩立樹 (がんりつじゅ)」 安部 龍正



「春近し」 松本 涼太



「貴重な里山『待兼山』の縁を守る」 青野 倫太郎



「森と遊ぼう」 中前 照美・浦西 美津子



審査員の講評では、「今回は粒の揃った作品が多かった。」「思いのこもった発表を聞いて楽しかった。」「フォトコンテストをきっかけに昆虫や自然のいろんな事を楽しんでほしい。」など、写真を通して「森林」を伝えるフォトコンテストのテーマが活かされていてよかったとの感想が多くありました。また、思いをいかに伝えるかの工夫、ストーリー性を深めるとさらによくなるとの意見もいただきました。

ニュース

大阪市立都島中学生が 森林管理局で職場体験!

【総務企画部 総務課】 11月6日(木)～7日(金)にかけて、大阪市立都島中学2年生2名が近畿中国森林管理局に職場体験に来てくれました。

1日目の午前中は、箕面森林ふれあい推進センター並びに森林整備課の指導により箕面国有林内にある「オオクワガタの棲める森づくり」で下刈りの森林整備作業を体験してもらいました。

初めて使う下刈り鎌で、4年程たった苗木の周りを刈り払いました。下刈り鎌を見るのも初めてで、職員から「苗木を切ってしまうように手前から少しずつ刈って行く」「鎌の刃を苗木に向けない」等の指導を受け、最初は慣れない様子で鎌を振っていましたが、次第に慣れてきて上手になっていました。

午後からは、同国有林内の歩道をコンパスで測量を行いました。こちらも初めて使う機器でしたが、機械の据え方、調整ネジの動かし方、角度の読み方等を教えるとすぐに理解し、二人で協力しあい短時間でかなりの距離を測っていました。

2日目は、森林管理局内で森林整備課から箕面国有林の施業の仕方等の説明、地図の見方などの説明を受けました。その後、1日目に測った測量の成果を製図する体験をしました。測った成果を基に水平距離を算出して「三角スケール」を使って測った距離を確認してみました。図面に書き入れようとすると、思ったより小さくなるので驚いた様子でした。

また、同様に国有林GISを使って製図しました。成果を入力するだけで「測った線が出ること」と「同じ図面がパソコンで出ること」に、これもまた驚いていました。自分たちが測った結果がその後、どのようになるか分かり納得した様子でした。

午後からは、「今回の職業体験学習を、広報誌に掲載する」という事で、広報主任官の指導のもと、その記事を自分たちで作成してもらいました。パソコンを使っての作業だったのですが、文章ソフトを使い、写真を挿入・レイアウトしながらの作業は初めてという事もあり、苦勞しながら作成していました。黙々とパソコンに向かい、一生懸命作った学習体験の記事です。

二日間という短い期間でしたが、森林管理局の業務の一部を体験してもらい、森林に親しむ機会が増え、森林の大切さを理解していただいたと思います。

都島中学校 村上拓巳 職場体験について

11月6日の朝、僕は緊張しながら近畿中国森林管理局にやって来ました



1日目は実際に美面国有林に行かせてもらいました。現場は、想像していたよりもすごく高いところまで行ったのでびっくりしました。乗せていただいた車が局長しか乗れない車だったので僕がこんな車に乗っていいのかと思う反面、嬉しさもありました。まず、現場では、鹿が出るという説明を受けました。僕は鹿が出るのだと知って少しビビってしまいました。次に下刈り作業をさせていただきました。



1日目は実際に美面国有林に行かせてもらいました。現場は、想像していたよりもすごく高いところまで行ったのでびっくりしました。乗せていただいた車が局長しか乗れない車だったので僕がこんな車に乗っていいのかと思う反面、嬉しさもありました。まず、現場では、鹿が出るという説明を受けました。僕は鹿が出るのだと知って少しビビ

ってしまいました。次に下刈り作業をさせていただきました。カマの使い方に最初は戸惑うまくいきませんでした。が、教えていただき段々とうまく使えるようになっていきました。結構しんどかったのですが、本当は夏にするのもっと過酷だと思いました。体力も必要だと分かりました。その後、展望塔から景色を楽しみました。



大阪の町が広がっていたのでとてもきれいでした。昼食を食べた後、コンパス測量をしました。説明をしていただいた後、できるかどうか不安でしたが、やっていくうちにできるようになり、楽しかったです。コンパス測量が終わり、局に帰って1日目は終了しました。

2日目は、1日目に行ったコンパス測量の結果をパソコンに打ち込んでいきました。



パソコンには、国有林の地図がそのままできたりしてパソコンのすごさなども分かりました。僕は、この2日間、職業体験をさせてもらい多くのことを学び、貴重な体験をできました。今後、社会に出たときにはこの2日間で学んだことを思い出して働いていきたいと思っています。近畿中国森林管理局さんのところに来て本当によかったです。2日間有難うございました。

都島中学校 藤原力斗 職場体験について

僕は11月6日と7日の2日間、近畿中国森林管理局さんで職場体験をさせていただくことになりました。一日目は8時50分集合で、実際に美面の国有林のエクスが記念の森で実習をさせていただきました。車で行きましたが、特別に局長さんが乗る車に乗せていただきました。最初芝生広場についた時に黒い玉みたいなのがたくさんごろついていたので、何だろうと思っていたら、やこうせいのシカのフンだといわれたのでこんなところにもシカがいるんだなと思いました。



次に下刈りをさせていただきました。僕の身長くらいのかまを使わせていただきました。持つ前はとても重そうだなと思いましたが、あまり重くありませんでした。でも、下刈りはとてもむずかしかったです。何回やってもきれいな時もあつたけどとても楽しかったです。その後展望塔に上がりました。周りを見るとあべのハルカスなどが見え、景色がとてもきれいなところだなと思いました。



そして昼食をとった後は、コンパス測量実習をさせていただきました。



最初はおぼえるまで少し時間がかかり、とてもむずかしかったのですが、おぼえはじめたらとてもおもしろかったです。

2日目は、図面の作成をパソコンを使ってしました。最初、図の見方など何もわからなかったけど、担当の林さんに色々教えていただいたので全部わかったわけではないですがほとんどわかったので良かったです。



そしてパソコンで昨日のコンパス測量のまとめのようなものを作りました。パソコンは便利だなと思いました。近畿中国森林管理局さんのたくさんの方がやさしく接してくださったのでここに来て良かったと思いました。ここで教わったことをどこかでいかせたらなと思います。本当にありがとうございました。

森林・林業の担い手を目指して ～山崎高校森林環境科学科の生徒が現場見学実習～

【兵庫森林管理署】 11月10日（月）～11日（火）に兵庫県立山崎高校森林環境科学科の1年生35名と2年生26名が、国有林の現地見学・実習を行いました。

山崎高校では、森林環境を守り、森林を育て、保護していくための基礎的・基本的な知識と技術及び森林を総合的に利用する能力と態度を身に付け、「森林に携わる幅広い担い手の育成」を目標とし、現場見学実習等の体験学習を重視し、地域社会、関連機関等と連携した教育を推進しています。

10日は2年生を対象に、三室国有林での植付実習とマンガ谷国有林で素材生産事業を見学しました。



植付実習では、スギの苗木100本を慣れない手つきながらも一生懸命に植え付けました。

午後からは、架線で集材した皆伐跡地や鹿被害対策の為にツリーシェルターの造林地を見学した後、前日の雨でぬかるんだ森林作業道を片道20分歩き、搬出間伐を行っている請負事業体の作業を見学しました。

現地では、スイングヤーダによる集材、プロセッサによる造材、フォワーダによる運材等の高性能林業機械を使用した木材の集造材作業、運材作業を見学しました。



11日は1年生を対象に、音水国有林のスギ・ヒノキ林木遺伝資源保存林や緑の回廊、イヌブナ植物群落保護林や治山事業施工地を見学しました。

250年生の林木遺伝資源保存林の倒木更新したヒノキの大木の前では、貴重な天然林資源を見上げ、その大きさに歓声が上がっていました。

当署からは、「実習や色々な体験等を通じて技術・知識を習得し、社会から必要とされる立派な人になって下さい。また、将来の国有林マンになれるよう挑戦して下さい。」と締めくくり、2日間を通し、職員の指導のもと真剣に取り組み、森林環境の大切さや林業の重要性等を肌で実感し、有意義な見学実習となりました。

「青少年のための科学の祭典 2014 亀山大会」へ出展

【三重森林管理署】 11月8日（土）、三重県亀山市の亀山市青少年研修センターで「青少年のための科学の祭典2014 亀山大会」が開催され、当署からは「木を使う」をテーマに木工工作と丸太切り体験ができるブースを出展しました。

「青少年のための科学の祭典」は、平成4年度から科学技術庁と科学技術振興財団の主催により、全国各地で開催されてきました。三重県でも平成11年度から県内各地で開催され、亀山市では平成16年11月に初めて開催されて以来、毎年開催されてきました。この企画には、子どもたちに科学の不思議さやおもしろさを体験してほしいとの願いが込められています。

当日は、地域の学校や企業などから25のブースが出展され、物理・化学・生物・環境などをテーマとした科学の楽しさを体験できる実験・展示・工作などが行われました。



当署のブースでは、木や自然の素材を使うことを通じて、森林の働きや森林づくりについて関心を持ってもらおうと、間伐材を輪切りにした円板や製材板、クロマツの球果やクヌギ、コナラ、トチなど様々な木の実を準備しました。訪れた子供たちは、これらの材料を自由に組み合わせてキーホルダーやクリスマスツリー、動物の置物など、オリジナルの作品を仕上げていました。

また、丸太切り体験も人気があり、初めてのこぎりを使うという子どもたちも、職員など大人の助けを借りながら、一生懸命のこぎりを挽いていました。

ブースには次々と人が訪れ、一時は満席になり、少し待ってもらわなければならないほどの盛況ぶりでした。



「第15回森林を考える 岡山県民のつどい」に参加

【岡山森林管理署】 10月25日の土曜日、岡山県津山市のグリーンヒルズ津山にて、「第15回森林を考える岡山県民のつどい」が開催されました。「森林を考える岡山県民のつどい」は、環境の世紀にふさわしい森林の保全や美しい森林づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図ることを目的として平成12年から開催されており、今年度で15回目を迎えます。ペンタホールでは基調講演やパネルディスカッションが実施され、テントブースでは県民参加の森づくりの推進等のPR活動や、県産材を用いた物品の販売等が行われました。岡山森林管理署と森林技術・支援センター職員



やOB（林野庁退職者）の方々を含め37名が参加し、つるかご作り、木工クラフト、苗木配布、パネル展示及び森林教室を実施しました。

開始時間になると、つるかご作りに老若男女

の参加者が集まりはじめ、思い思いに作品を作っていました。初めての方はつるに力を入れて曲げていく作業が難しいようで「結構力があるんですね」「ちゃんと出来るか不安」などの声が挙がりました。しかし作成していくと形になっていく姿を見て満足そうでした。また、何回も参加されている方は、職員顔負けの作品を作られたり、初めて参加した方にやり方を教えたり、非常に和気藹々とした雰囲気でした。

木工クラフトは、大盛況で場所が足りなくなったため、パネルを展示しているスペースを利用して、そこで木工クラフトを実施するほどでした。親子で仲良く作られたり、子どもたちが夢中になっているのを優しく見守る保護者の方、あるいは子どもたちより夢中になって作品を作られる方もいらっしゃいました。作品はそれぞれ工夫が見られるものばかりで、職員も感心していました。

今回、初めての試みとして、森林教室を実施しました。木工クラフトのブース付近では「どんぐりはなにもの？」と題して、どんぐりの仕組みを説明し、つるかご作りのブース付近では「つるってなんだ」と題してつるの仕組みを説明しました。作品を作成する皆様が一息懸命なところへ始めたのですが、手を止めて聞いてくださる参加者もいてとてもありがたかったです。

苗木配布では12時00分から配布開始でしたが、例

年通り配布前から多くの方が並ばれていました。参加者の方から「去年もらったブルーベリーに実がついた」「今も大事に育てています」など嬉しいご意見を頂きました。今後も苗木配布を通して参加者の方と心の交流が出来ればと思います。

このイベントに今後も参加し、一人でも多くの方に森林について考えていただく機会を設けていきたいと思えます。



大山森林生態系保護地域自然観察会を開催

【鳥取森林管理署】 11月9日（日）、大山国有林の大山森林生態系保護地域で、大山森林生態系保全管理協力員の案内による自然観察会を実施しました。今回は、豪円山キャンプ場から大山寺を経由して寂静山展望台に至るルートを大山森林生態系保全管理協力員4名、県内各地からの一般参加者14名の方と一緒に散策しま



した。当署からは5名が参加しました。

当日は、あいにくの雨模様でスタートし雨合羽を着用しての観察会でしたが、

終了間際には雨も上がり、紅葉盛りの色とりどりのブナの二次林の中を、協力員の方から動植物の解説を受けたり、いろいろな種類の落ち葉やどんぐりを拾いながら、ゆっくりと進みました。途中、中ノ原地区の大ブナを訪れ、胸高直径約100cm、樹高20mを超えるであろうブナの雄姿にエネルギーを充填してもらい、古の自然や生態系などにも思いを馳せながら散策しました。

また、協力員の方には、山の歩き方のコツや、自然を詠んだ俳句、動植物のおもしろい豆知識なども紹介していただき、家族で参加された方々など熱心に聞き入っておられ、いろいろな質問も飛び交い活発なコミュニケーションが図られました。

今後もこのような活動を通して、大山森林生態系保護地域の自然に親しみ、学べる機会を継続していきたいと考えています。

京都府立大学との 連絡調整会議を開催

【技術普及課】 京都府立大学と近畿中国森林管理局は、昨年11月に森林の公益的機能の持続的な発揮、森林・林業の再生等に向けた連携と協力に関する協定を締結しているところです。この協定に基づき、今後の取組の更なる推進のため、11月13日（木）に連絡調整会議を開催しました。



当日は、会議に先立ち、京都府南丹市美山町に所在する大野演習林の見学会を行いました。見学会では、松村和樹演習林長らの案内で、演習林実習棟などを見学した後、高齢級間伐（約100年生）を実施した林分や、成長が早く地球温暖化防止などに期待されているセンダンの植栽箇所を視察しました。

センダンは、本州の伊豆半島以西、四国、九州沖縄から朝鮮半島南部、中国の暖地に分布するセンダン科の落葉広葉樹で、今年5月の植栽時には0.5m程度であった樹高が施肥したものでは、すでに2.5mに成長しているものもあり、その成長の早さに一同、感心しきりでした。大学側からは、20年程度で主伐が可能、材はケヤキの代替材として家具材や内装材として市場で評価され売買もあること、直材の生産には芽かき作業が必要、シカの食害はほとんどないこと、などが紹介されました。

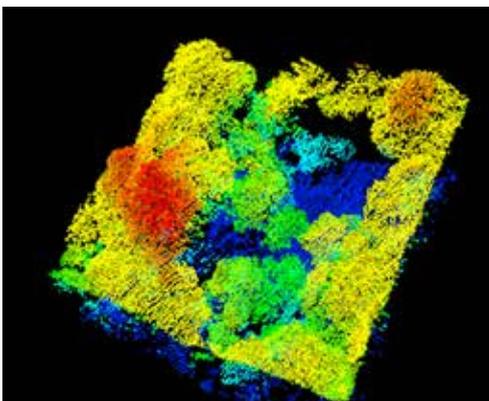
見学会終了後は、場所を京都府立大学の稲盛記念会館に移し、連絡調整会議を開催しました。会議には、局から石井次長はじめ9名と京都大阪森林管理事務所から山崎所長ら2名、京都府立大学からは、田中和博副学長ら9名の参加がありました。

会議では、田中副学長の挨拶の後、意見交換を行いました。当局からは、「職員研修や会議での大学側からの講師派遣、各種委員会への協力依頼、センダン等成長の早い樹種への取組への参画・指導、京都大阪所が実施している各種取組に対する協力依頼」等について要望しました。大学からは、「貴局の研修や会議で、本日見学した大野演習林や実習棟の利用も検討頂きたいこと、京都大阪所との連携した取組に引き続き協力したい。」等の回答がありました。

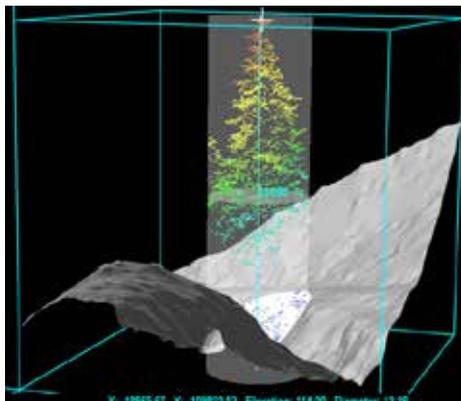


また、意見交換終了後には、京都府立大学大学院生から、「LiDARとFusion/LDVによる小班特性解析と精度検証—南禅寺・大田山国有林での樹高・樹冠底高・樹冠幅比較—」と題したプレゼンテーションがありました。Fusion/LDVとは、アメリカ合衆国農商務省森林局で開発された森林資源解析用オープンソフトウェアで、航空レーザープロファイル（LiDARデータ）を同ソフトウェアで解析することにより、植生の樹冠形成、樹高などを判読できますが、現状では、Fusionの樹高数値は、ばらつきが多いが概ね良好であること、樹冠底高・樹冠幅は誤差、ばらつきとも大きいことが報告されました。

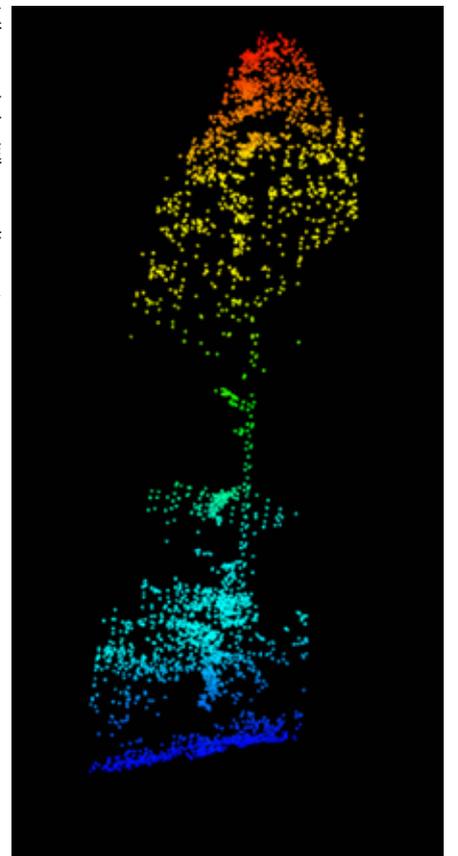
当局では、今回の連絡調整会議を踏まえ、京都府立大学との更なる連携・協力を進め、森林・林業の再生、地域振興及び人材育成に努めていくこととしています。



森林の樹高形状を3Dにしたものです。



単木の樹高形状を3Dで表したもので、樹冠長・樹冠体積・樹冠表面積・枝下高を判読できます。白い部分は、地表面の形状を示しています。



レーザーの照射状況により樹幹の状況を判読できます。上方に進むにつれ暖色系となり、樹高などを判読できます。

近畿中国森林管理局

「国有林モニター」募集！！

林野庁近畿中国森林管理局では、国有林を開かれた「国民の森林」とするよう取り組んでおり、その一環として、国有林の事業運営等について、国民の皆さまの理解を深めるとともに、ご意見やご要望をお聞きして国有林野行政に反映させるため「国有林モニター事業」を実施しているところです。

この度、平成27年度「国有林モニター」を募集いたしますので、多くの皆さまからのご応募をお待ちしております。

- * 募集人員 80名程度
- * 依頼期間 平成27年4月から平成28年3月まで(1年間)
- * 依頼内容
 - (1) 国有林に関するアンケートへの回答
 - (2) 国有林野の管理経営についてのご意見・ご要望等の提出
 - (3) モニター会議へのご出席(希望者から若干名を選定)等
- * 応募資格

近畿中国森林管理局が管轄する2府12県(石川県、福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)にお住まいで、森林・林業及び国有林に関心のある満16歳以上の方。ただし、原則として次の方を除きます。

 - (1) 国会及び地方議会の議員
 - (2) 地方公共団体の長
 - (3) 常勤の国家公務員
 - (4) 平成24年度、25年度、26年度の3年間連続して国有林モニターとなられた方
- * 応募方法

郵便(官製はがき、封書)、FAX、ホームページ、E-mailのいずれかにおいて、以下の必要事項を記入の上、下記の近畿中国森林管理局国有林モニター担当までご応募ください。

 - (1) 氏名(ふりがな)
 - (2) 住所(郵便番号)
 - (3) 性別
 - (4) 年齢(平成27年4月1日現在)
 - (5) 職業
 - (6) 電話番号
 - (7) メールアドレス(ございましたら)
 - (8) 「国有林モニター」募集をお知りになったきっかけ(具体的にお願い致します。)
 - (9) 「国有林モニター」に応募された理由(200字程度)
- * 募集期限 平成27年1月23日(金)当日必着
- * その他
 - ・結果については、平成27年3月中にお知らせいたします。
 - ・選定結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。
 - ・国有林モニター様には、ささやかではありますが記念品をお贈りしています。
- * 応募先・問い合わせ先

近畿中国森林管理局 企画調整課：国有林モニター担当
TEL：06-6881-3406 FAX：06-6881-3415
E-mail：kc_kikaku@rinya.maff.go.jp
HP：http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/monitor/index.html

お知らせ

もうすぐ、はじまります！

近畿中国森林管理局では、多くの国民が親しむ「開かれた国有林」を目指すため、局庁舎1階の展示ギャラリー【森林(もり)のギャラリー】への展示参加を広く募集しております。

平成27年度 ギャラリー展示団体の募集は、トゥリアム及びプロムナードギャラリー・展示ボックス、ともに12月末頃から予定しております。

沢山のご応募、お待ちしております。

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【12月の展示スケジュール】

テーマ：暖帯の取り組み紹介

12/19～12/26 パレット・K 洋画展

【パレット・K】

花草木

今月の花草木は「ウラジロモミ」です。

裏白樅はマツ科モミ属の常緑針葉樹で、日本の特産種でもあります。

花言葉は、不変。

モミとよく似ていますが、より寒冷な気候でも育ち、高度1,000～1,800mで自生しています。ウラジロモミはその名の通り、葉の裏が白っぽく見えます。細長の葉はモミと同じように見えますが、葉先は僅かに2裂し、よく観察しないと分かりずらいほどです。なので、モミのように触れた時に「チクチク」しないのも違いの1つです。

クリスマスツリーとしても人気の品種らしく、今の時期、園芸屋さんや街中でもよく見かけるのではないのでしょうか？

形状は三角錐に近く、葉裏の白色が混ざり、ちょっと優等生なツリーに見えるかもしれませんね。

シリーズ 保護林 第18回

近畿中国森林管理局の保護林

さんべさん

三瓶山自然林植物群落保護林 [江の川下流森林計画区]



ブナ林の様子

三瓶山植物群落保護林は、島根県飯南町に位置しています。当保護林はブナ、ミズナラ、クリ等の三瓶山の自然を代表する天然林の保護を目的として設定しています。

保護林の面積は121.43haで、国立公園や史跡名勝天然記念物、水源かん養保安林などにも指定されています。

保護林の植生は、保護対象樹種であるブナ、ミズナラをはじめ、イヌシデなどが主に林冠を形成しており、そのほかにススキやカシワなど多くの植物が見られます。



シデ林の様子



三瓶山火口湖 (室内の池)

【三瓶山自然林植物群落保護林に生育する植物】

◎植物:ブナ、ミズナラ、クリ、イヌシデ、アズキナシ、ナナカマド、リョウブ、クロモジ、コアジサイ、コハウチワカエデ、ハイヌガヤ、チュウゴクザサ、ミヤマカタバミ、スギ、ススキ、カシワなど

【三瓶山自然林植物群落保護林へのアクセス】

◎車・・・三瓶山高原道路(アイリスライン)・県道30号線から各登山口にアクセスします。

◎歩・・・東の原、女夫松、姫逃池、西の原の各登山口から登山道が整備されており、各登山道から保護林へアプローチできます。



鳥地獄

【保護林及び国有林内での注意事項】

- ★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
- ★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
- ★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
- ★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。



クリ
Castanea crenata



ブナ
Fagus crenata Blume



ミズナラ
Quercus crispula Blume



三瓶山自然林植物群落保護林

